

2024 春 “研鑽する機会”を得て
みんな Step up

同年代の若者たちが主体となって創った“春の合宿研鑽会”

3月22日～24日、岡部実蹟地を会場にして“春の合宿研鑽会”を開催しました。やりたい人、参加したい人が毎週 ZOOM で寄って、自分たちがやりたい合宿研って何だろうと、企画内容を考え、研鑽したいことを出し合ってテーマも決めて……。研鑽会は私達にとって欠くことができない生きるツールを実感。この合宿研鑽会を共に創った参加者達の感想を紹介します。



千葉県から参加の MK さん（28 歳）

みんなと2泊3日研鑽会ができて、とっても楽しかったです！

ずっと同年代の私達を含めた研鑽会の企画をやりたと思っていたので、念願が叶ってすごく嬉しいです。

1月に企画が発足してから毎週 ZOOM で集まって、企画を考えることに加えて、みんなでテーマを決めて、それで1週間やってみてどうだったかを出し合う研鑽会をしました。日々テーマを持ってやってみるのがすごく楽しかったし、いつも忙しくて全然考える時間を取れていないことにも気づきました。週1回の研鑽会があることで、一度落ち着いて、考えや気持ちをリセットする場にもなっていたと思います。

岡部実蹟地での2泊3日の合宿研は、現地でやるならではの良さがいっぱいありました。

ひとりひとりの顔がよく見えて、みんなの笑い声もたくさん聞こえて、いつもと違う場所で集中して自分の中を探れた

と思います。

合宿研で感じたことは、研鑽会って『いつでも、どこでも、だれとでも』できるんだということです。10分しかなくても、寝る前の布団の中でも、自分とは合わないなと思っていた人とも、研鑽会ができました。

始まるまでどんな企画になるかわからなかった合宿研だけど、こんなに楽しい2泊3日になって、本当に嬉しいです。これからは、隔週の ZOOM 研鑽会に加え、春夏秋冬で定期的に合宿研を開催する予定なので、是非みんなで一緒に研鑽会しましょう！

兵庫県から参加の SK さん（28 歳）

「若者で合宿研鑽会をやりたいから一緒に企画やらない？」と誘われて始まった ZOOM での準備研。参加者が誘いたい人を誘う流れになり、私が研鑽学校に参加している間に幅広い年齢層の人が参加する合宿になっていました。

研鑽会では「共感の失敗が怖い」と言う話が印象に残っています。そもそもなぜ若者で研鑽会をやろうと始まったのか、その中に共感の失敗が怖いと言うことがあったのかもかもしれません。近い年齢だと経験値や感覚が似ていたりして、共感できることが多いです。しかし、いろいろな人の考えを知り、自分を知る事が研鑽会の良さで、年齢は関係ないことを感じました。幅広い年齢層の人が参加することで研鑽が深まり、共感の失敗さえも笑い合える楽しい合宿となりました。また各地の実蹟地で開催できたら嬉しいです。

2024 年・夏の「特講」開催予定

8月17日(土)～24日(土)

会場：ヤマギシズム岡部実蹟地（埼玉県）

●問合せ：ヤマギシズム東京案内所

E-mail tokyo@koufukukai.com

TEL 042-851-9180

●申込み：WEB →

FAX 042-851-9181



愛知県から参加の AI さん (22 歳)

初めて岡部実顕地に行って、濃い 3 日間を過ごせました。研鑽会の中で出た「共感の失敗」というキーワードから、自分の中に他人と違うことを恐れて相手に合わせてしまう部分があることに気がつきました。そのまま見る、聞くをやっていくことで、自分のこんな部分が少しずつ変わっていくのかなぁ、とも感じました。これからも日々の中で研鑽を続けていきたいです。

愛知県から参加の SS さん (27 歳)

途中からの参加で、研鑽会のみ参加でしたが、合流した愛和館で、みんなが楽しんで過ごしていることが伝わり、安心して飛び込むことができました。

普段から、予定や雰囲気など自分がイメージできていることで、安心しがちなところがありますが、今回の合宿研では、どんなふうになるかな？ という分からないところも楽しみ、研鑽会では、聞くことを楽しむことができました。

三重県から参加の YK さん (34 歳)

合宿研鑽会に参加して、初対面の人が多い中、自分の事を話したり人の話を聞いたのは、やっぱり研鑽会という形だっ

たからだと思います。

研鑽会ではその時に思った事から広がっていき、自分を含めてそれぞれの過去の出来事から普段思っている事、それを現実ではどう折り合いをつけるのか、またはどう出来れば自分にとっていいのか、などが印象に残りました。

他人の意見を聞いて、自分との違いがわかり、そこから自分をみてる。そんな事も出来ていい機会でした。

栃木県から参加の MH さん (26 歳)

「なんでも軽く出す」というテーマでやりましたが、いろいろな人のいろいろな話が聞けて本当に楽しい 2 泊 3 日でした。

自分は思ったことをそのまま出すタイプでしたが、共感して貰えなかったらどうしようと考えて、あまり出さない人もいて、ぜんぜん違う人もいるんだなーと思いました。

研鑽会のテーマもいる人で「こんなこと考えたい」「こんなこと思ってる」「さっきの研鑽会でこんな風に思った」というのを出して、みんなで「じゃあ、それ考えてみようか」となるのも新鮮で楽しかったです。

日常にも研鑽テーマはいっぱいあって、見逃していることが多い気がしました。一度立ち止まってみて、今、自分はこう思っている、こうしてるのはなぜかな？ 決めつけてないかな？ というのを続けてみたいです。

「と」に立つ実践哲叢 (67)

老いることは幸せ

職場が酪農部から生活部へと変わって何日目か、夕方風呂場のあたりで通りすがりに娘ほどの年頃の T 子から「お疲れさーん」と一声かけられた。すると、おう！ と呼応するかのようにホントお疲れだよなぁーとしみじみ疲れそのものを味わっている自分がいた。そしてそこから何かしら愉快的な気持ちが湧いてきたのだ。そんな自分自身に驚いた。

それというのも先頃春日山実顕地では、これまで暮らし全般のことを衣生活部・食生活部・住生活部・介護部とそれぞれの職場としてやってきたことを、新たにより境や隔てのない一つの方向へ生活部としてスタートしたからだ。

それまでの職場には愛着もあった。でも団塊の世代で後期高齢者に入る自分に何が出来るか分からないが、面白そうだからやってみようと思ったのだ。

一日は厨房美化のモップがけから始まった。ところが床をべたべたにしてしまうのか、早速モップの水の絞りを伝授される。なるほどと感心。横からも「モップがけしながら、どこに何が置いてあるか知ってね」と声がかかる。もちろん、返事は「ハイ」。ところが……。

午後は主に大きな回転鍋でみそ汁をつくる。約 200 人分。その日はかき玉汁だった。レシピに片栗粉とある。相方の M さんに片栗粉はどこ？ と聞くと、視線が足下へ……。

毎朝のモップがけで移動させていたボックスコンテナ(片栗粉と表示)がそれだった！ レシピと実物とが結びついて、思わず感嘆の声が出た。

ある日、味噌 2.1 kg 計量することになった。それを 2 kg はかりで量ろうとしていたら、M さんが不思議そうにまじまじとこちらを見つめている。そして隣の 20 kg はかりを



指さす。

一事が万事、トンチンカンなことばかり。

でもそうした日々の一コマが、嘲笑や罵倒に換えるに愉快的な気持ちと呼び起こしている実感がある。そんな社会気風に抱擁(つつ)まれている実態がある。

ふと「老いることは幸せ」という言葉が思い浮かんだ。

初めて知った時、ウソー！ 年を重ねて老碌(もうろく)してボロ雑巾のように捨てられる、そのどこが幸せ？ という気持ちが出た。

でもその言葉には妙に惹かれてきた。いつも心の片隅でなぜそんな絵空事にすぎないことが言えるのだろうか。

たしかによくよく考えてみると、ボロ雑巾のように「要らないものは要らない」。それって自然全人当たり前の姿ではないだろうか。

当たり前の姿と自分の気持ち。

もしそこに境や隔てがあるとしたら、自分なりの実感かともなわないからではなかろうか。だとしたら本当に実感のともなうところまで行きつくしかない。

トンチンカンながらも無我夢中で一つの方向へ合わさっていこうとしている、そんな自分に触れるところから始まるかも。

ホント老いることは幸せ。

(佐川清和)

会員研鑽学校に参加して (3月2日～16日・会場：美里実顕地)

「相手は何を言ったのか」に寄り添いたい

埼玉県 RY (20 歳)

今回、研鑽学校に行き、始めの一週間はテーマや人の話を自分とは切り離して考えていました。抽象的な話題というのもありましたが、いちばん大きかったのは、自分のことをあまり考えたくなかったのだと思います。そのため、自分から壁を作り、自分とそれ以外の人という風に切り離していました。なので、始めの一週間はとても長く感じていました。しかし、折り返しの日の昼に参加者の1人と自分の内面について話したときに、自分がなぜそう思っているのかを考えるようになりました。そこからの一週間はテーマや人の話を自分に近づけて考えられるようになりました。

その中で一番心に残ったことは事実は事実には過ぎないということです。人の何気ない言葉が自分の中で悪い方向に捉えてしまうことが多々あったことに気が付きました。「相手がなにを言ったのか」に寄り添うことで、自分の中で悪い言葉もただの一言に捉えられれば、もっと人と接することが楽になると思いました。この気づきを忘れずに人の話を「えっ！」で受け止めるのではなく、素直に受け止められるようにになりたいです。

20 歳という年齢でこの濃い2週間研学に参加出来たことがとても幸せに思います。

生活の中から出てくる感情に向き合いたい

三重県 YK (34 歳)

研鑽学校は参加を勧められてたのと、正月に特講の係をしてそれが良かったので参加を決めました。

最初はどこかテーマが入って来なかったり、集中しにくかったりもしました。発言するのをためらっている間にテーマが変わって、言えばよかったと思うようになり、それから徐々に発言出来るようになり、他の人の発言も初めは何を言って、それは要約するとどういう事かというのを考えながら言葉尻を気にして聴いていましたが、途中からは何を伝えたいのかを感じようと、聴くようになっていき、自分もそういうものを出そうと意識してみました。

その中で自分は、生活の中で感じる事や、出て来る感情が少なく、他の人は生活しながら色々感じてる事があり、それ

「LINE マガジン」登録と今後の「けんさん」紙について

●ヤマギシ会や実顕地での企画や行事、特講や研学の日程などは、現在 LINE マガジンでお知らせしています。登録は QR コードでできます→



●また、「けんさん」紙は、今後も年3回程度の発行を考えていますが、郵便料金の値上げなどを考え郵送はやめて、HP にアップし、LINE マガジンでお知らせし、みなさんがダウンロードして読んでいただくこととなります。

●また現在、会の活動経費は心ある人の協力で運営しています。協力を納めていただいた方には活動報告を兼ねて1年間紙印刷「けんさん」を郵送する予定です。紙印刷「けんさん」をご希望の方は協力金の振込をお願いします。

「協力金」振込口座：ゆうちょ銀行

口座番号：00860-8-62321 口座名：幸福会ヤマギシ会本部



に真摯に向き合っているのを感じ、そんな自分の本音はどこにあるのか、また研鑽作業や生活から何か出て来ないかなと思いつつ過ごしていました。

また研鑽会以外でもいろんな話ができて、それぞれの人の興行が見えて来たり、自分の話も聞いてもらえたりとてもいい時間でした。

研鑽学校を通して少し自分の視野が広がったと思います。

目の前のものをそのまま見てわかってきたこと

愛知県 SI

私が研鑽学校に参加しようと思ったきっかけは、春日山で親子合宿をした時に全体を見る立場に立っていたのですが、色々な事が決められず、迷ってパニックになっていました。決めれない自分を隠しきれず、恥ずかしいやら、情けないやらで。合宿が終わったあと、研鑽学校行った方がいいかなって考えていたら、周りの人からも「研鑽学校考えてみて」と声かけてもらい、迷いましたが、参加する事に決めました。

研鑽学校の中で、印象に残っているのは、にんじんの苗の間引きです。最初の方は周りの人の動きについていけない心配で、にんじんの苗を見ているようで見ていなかった気がします。後半になって目の前の「にんじんの苗をそのまま見る」でやっていくと、にんじんの苗が見えてきて、今どうするかが自然とわかる感じがしました。

研鑽学校から帰ってきて、春日山合宿の事を思い出したら、私は一緒にやっていた仲間や子どもたちの事を見てなかったし、私の中に研鑽が全然なかったと今改めて思います。

2週間過ごして帰ってきた今は、時々テーマを思い出して、研鑽学校の続きをやっているところです。

「共にこの世界で生きている人たち」を感じた

佐賀県 HK

前回の研学参加から30年も経ってしまっていることには我ながら驚きましたが、その分、自分の在りようの違いが観察出来て面白かったです。

今回、始めて1～2日経った頃、自分が結構変わってきていたことに気が付きました。30歳も歳を取ったのですから変わっていて当たり前なのですが、ただ歳を取ったからではなくて、進化形として、「社会の中の自分」「みんなとともにある自分」みたいな感覚が自分の中にあるのを感じた、というのか、心が外に向かって開いている感じ、かな。

研鑽学校で初めて会った皆さんは、関係のない見知らぬ他人ではなくて、共にこの世界で生きている人たちだとわかっている、みたいな。当たり前のことかもしれないけど当たり前じゃないこと。そう感じる自分を自覚したことが今回一番

の発見と驚きかも知れません。

だからこそ、研鑽会はいろいろな仕事や年齢の人たちとやれて面白いのだ、ということも今はじっくりきます。そういう説明も不要で、一人一人の考えは大事で、一人一人の存在が心にくっきりと刻まれて、だから私もここに居ていいのだ、という感覚。これは間違いなく「幸福」ですね。

「ソノママキケル」人になるっていいなァ

宮崎県 JO

参加の動機が「言った」「言わない」で話が前に進まない事。その他諸々。私はどう生きていきたいのか？

参加するには、「わがままでテーマに取り組もう、何でも出

す」でした。

研鑽会では、人の言っている事が何を言っているのか？ どう理解したらいいのか解らない。そんな中、2週間テーマでやっていくうちに、人が出した事に「出してくれてありがとう」という場面があり、自分はそんなこと考えもしなかったのに、感動する自分に出会って、その夜、「これってもしかして琴線に触れる」って事？ と思ったら嬉しかった。

帰ってきてからは、主人に「お前少し黙っとけ」と言われ「ハイ」と言ってまた話し出す。話しながら隣の主人をみると、ご飯食べながらニコニコ話を聞いてくれている。嬉しくなりました。こんな生き方していけると思った。人の言っている事を「ソノママキケル」人になるっていいなァ、そんな研学でした。

“春の子ども楽園村、開催

3月26日～29日、豊里実顕地を会場に小学生・中学生対象の春の楽園村を開催。参加者40人、スタッフ合わせると70人の大家族で3泊4日を過ごしました。職場体験での真剣な顔や、遊んでる時の楽しそうな姿など、みんなのびのびと暮らしていました。若いスタッフが18人も参加してくれたことで、お兄さんお姉さんと沢山遊べたのも、今回の楽園村の良かったところです。(豊里実顕地・TK)

—楽園村スタッフやってみて—

楽園村で育った僕が今度はスタッフとして一役

徳島県 ST (21歳)

小学校低学年の頃から参加していた楽園村が、ついにスタッフになるほど、自分も成長してしまいました。

初めは親に言われるがまま、嫌々参加した1泊2日のわくわく合宿。終わる頃には「また行きたい」と大きな声で言うぐらい楽しかった記憶があります。その後、楽園村という存在を知り、自ら行きたいと言い参加し始めたのが初めての楽園村でした。

ここでは、普段の生活では体験出来ない事を沢山してきました。職場体験、年上のお兄さん、お姉さんとの遊びなどなど…。普段の生活とは少し違った環境が、僕にとって刺激となり、より自分を成長させたと思っています。今の僕を形成するにあたって、その一部となってくださったヤマギシズムのために少しでも役に立てれば良いと思い、今回スタッフとして参加させて頂きました。

6年ぶりの楽園村でしたが、相変わらず子供たちは本当に元気いっぱい、現役で運動部に所属している僕でもついていけないほど体力があり、毎日死んだように眠りについていました。小さい子供たちに囲まれ、おもちゃのようにボコボコにされた日もありました。多勢に無勢、数の暴力とはこの

事かと…身をもって知ることが出来ました。また、痛



いものは痛い、スタッフも人間なんだ、スパーマンじゃないと、小学生の頃に自分の相手をしてくれたスタッフの方々に感謝と謝罪を伝えたいです。ただ、子供たちは本当に弟、妹のように可愛く、時間が許すのであれば、いつまでも遊んでいたいと思える存在でした。



僕自身も大学生ながら、とても楽しませて頂きました。将来、教員を目指す身としてもとても良い経験をすることが出来ました。最後になりますが、今回楽園村の運営に関わってくださった方々、本当にありがとうございます。これから先も子供たちの笑顔で楽園村が続くことを願っています。

ステップアップして次世代に繋がっていく楽園村に

兵庫県 MT (24歳)

今回の楽園村では、“みんな仲良くやっていくためにはどうすればいいか、こども達がどんどん進んでやっていくためにはどうすればいいかを考えて行動する”ことを意識しました。

生活の中でどうすればいいだろうと思った時も、ここに立ち返って考えたら行動すべきことが見えてきて、声をかけることができたし、そこから動いてくれた人達のおかげで実現して、こどもの喜ぶ姿を見れたとき、すごく嬉しい気持ちになりました。大人スタッフに相談したときには「どうする？」「まなはどう思う？」って聞かれることが多くて、そのとき、私自身は知らないうちに解決方法や答えを求めて質問していた、まずは自分で考えることをしてこなかったなと気付きました。楽園村を盛り上げたい、楽しんでやっていきたいと思う人たちが集まって、創っていきける環境があることに感謝し、これからは自分から考えて提案していきたいなと思いました。

また、今回は私が学スタの頃に参加者だった子たちと一緒にスタッフをすることができて感慨深かったし、自分がマイクを握って司会進行をやることも多くて、苦手だと思っていたことを楽しみながらできている自分に驚きました。それぞれがステップアップして次世代に繋がっていく楽園村になったのではないかなと感じています。

一緒に遊ぶ友達が沢山集まるだけで楽しい

愛知県 HA (38歳)

今回スタッフとしては初めて楽園村に参加しました。きっかけは地域でやっている子育て講座で、ハレハレ保育のお母さんをやってみた事でした。自分の家で子供達と接しているのと違う視点、気持ちで、見て声かけができて気づく事が沢山あるなあと考えたからです。

そんな時に「楽園村にも参加してみたら？」と声をかけてもらって、子供達も「お母さんが参加するなら私達も入る」と言っていたので、参加することにしました。

楽園村中は、10代20代のスタッフが小、中学生と混ざり遊び、移動なんかも一緒に行動してくれていたのも、私自身はあちこち行きながら、1人でいる子がいなかったかなとか、危険なことはないか？子供達だけになっていないか、などを見て回って声かけたりしていました。

最終日には親との交流会にも参加して、普段はTV、ゲーム機があるのが当たり前、寝るのも遅く、起きるのもなかなか。そんな子供達、ない生活で、しかも朝はすごく早起きと聞いて、一体何をしているの？と質問が来しました。

一緒に遊ぶ友達が沢山集まるだけで、トランプ1つとっても幅が広がって、何回でもやれるし、ご飯も楽しく食べられる。特別に何かしてなくてもそれだけで良くてすごいなあと考えた楽園村でした。

各地の活動

関西 楽園村スタッフを終えた若者たちで食卓会

奈良県 KO

3月30日(土)奈良の「みどりの木(関西事務局)」で若者食卓会が開催されました。

集まった若者は11人。豊里実蹟地での楽園村スタッフを終えたメンバーがほとんどで、ちょっとお疲れ気味でしたが、たくさんのお肉をプレゼントしてもらって豊かな食卓会になったようです。

終わってから関東の若者1人はみどりの木で宿泊しました。これからもみんなの寄り場として宿泊場所としても活用してもらえたらと思っています。



北海道 研鑽学校受け入れ研を夕張実蹟地でやりました

北海道中標津町 TM

4月7日(日)夕張実蹟地で3月美里実蹟地での研鑽学校に参加したSAさん、RMさんと一緒に研鑽会をしました。

楽園村に長男を送って

親も子も次の夏の楽園村が楽しみ

大阪府 NK (38歳)

私が子育てするにあたって、とても大切にしている事は生きる力を身につけてほしいという事です。

人とコミュニケーションを取る(自分の気持ちを伝える、相手の気持ちを汲み取る)事がとても大切だと思っています。今回、長男の丈を楽園村に送り出したのは、丈が沢山の人と触れ合って色々な経験ができたらいいなと思ったからです。

家では毎日学校や習い事、ゲーム動画三昧で同じ事の繰り返しですが、新しい友達、慣れない環境で丈の心がいっぱい動くことがあったらいいなと思い送り出しました。

離れる時も少しも寂しげでなく…帰ってきた丈は相変わらず「丈のまま、でしたが「楽しかった!」「また行きたい!」の言葉が聴けたのが嬉しかったです。一日中思いっきり遊べる環境で、誰に怒られることもなく過ごす3泊4日は最高だったようです。

帰宅した日、本当に久しぶりに2人で一緒に寝ました。やっぱり少しホームシックもあったようで、あまり口数は多くない子ですが、子供ながら思う事があったのかなあとしみじみ幸せな気持ちで眠れました。

楽園村に送ってみて、まだまだ丈も可愛いなと気づくことができました。夏の楽園村も楽しみにしています♡



道東から車で6時間かけて4名、札幌から2台の車で同乗して7名、夕張実蹟地メンバー3名の14名で行きました。コロナ渦から3年ぶりに寄った研鑽会でした。

移住してきてはじめての方やひさしぶりに会ったメンバーもいたので、自己紹介と近況報告をして、20年、25年ぶりに研鑽学校に参加した2人の参加動機、参加してみてもうもらって、聴いてみて、それぞれの研鑽学校を振り返り、今おもうこと、研鑽するってどういうことかな?研鑽会にするのには?気づきの場や機会にしていこう研鑽会に、研鑽学校にいきたいなどなど、いろいろ出し合いました。

今回は日帰りの3時間30分位の時間だったので、物足りなさは残りましたが、今年また北海道合宿研鑽会を企画し、寄りましょとなりしました。

◇Mさんの感想:久しぶりにみんなに会えたことが良かったし、嬉しかったし、楽しかった。夫婦で参加したから今日は夫と夜中の12時まで、あーだこーだと2人で話しこんだよ。

◇Sさんの感想:ちょっと物足りなかったです。

でも、研鑽会は言葉だけでなく、そこに身を置いておくことも含めて研鑽だと思いました。言葉だけでなく、意としないでも本音を言っていなかったりするし、言いたいことも言わないこともあるし、でも全て含めて研鑽と思ったら有意義な時間でした。



関東 4月12日 岡部実顕地で「春のつどい」を開催

暖かい春の日差しと満開の桜のもと、岡部実顕地で「持ち寄りてつくる春のつどい」を行いました。



●石川県から参加した SM さん

今回は準備する楽しみを味わいさせてもらった。もちろん本番もダブルで。

たまたま、持ち寄りの店の看板を書いてと声がかかった。やってみようと、まずは店の作り手の節子さんに聞いてみた。"出し巻き卵"は縦書きがいいな、"だし"と"たまご"はひらがながいいなど。書き始めた。字体は卵のふくら感はずの赤色、縁取りは卵の黄色。完成すると、美味そうと自画自賛！

次に"豚肉の炭火焼"は作り手からも横書き2段がいいなと。書いてみると"炭火焼"の3文字には"火"の文字が3連チャンと面白い！勢があり、まさに炎！炭の黒色の太字と縁取りは炎の赤と。よだれが出てきた！

無我夢中の世界で、はまった。

楽しみの元は、その世界もあるな！皆んなで作り上げる、食べる世界は楽しい？それと、泊の飲み会も最高！！

また、岡部に寄らせてもらいます。



ひろば



月1回、筆文字サークルで楽しんでいます

北海道に移住して早3年目

札幌市 YK

2021年秋、私は夫と犬1匹と一緒に、息子家族と一緒に住むため、東京から札幌に移住してきた。

一年目、引越しが10月だったこともあり、空が高く雲が異国情緒を醸し出し、ピカピカの除雪車の待機場などすべてが新鮮で、ああ北海道に来て良かった！と、秋の北海道賛美の日々。雪が降ってもまるでカナダのスキー場と、毎日がワクワクの連続だった。

二年目は兄妹友人たちがやってきた。富良野だのエスコンだの函館だのと、観光ガイドをやって。

そして三年目を迎えた。雪は降る、道路は凍る。ツルツル路面でどこに行くのも嫌、家で引籠り、なぜか雪が解けてもそれは続いていた。これが雪国鬱？高齢者鬱？と悶々としていた所、夕張実顕地で研鑽学校参加者の受入れ研鑽会があると誘われた。

自己紹介や研鑽学校報告などのあと、けんさん紙がLINEマガジンに移行する方向との話題となった。都内から来た私は地域の会員情報や村情報が欲しかったのもあって、それなら北海道版の情報誌は出来ないのか？と提案した。そしてもし作るなら制作のノウハウはあるとそこまで話した。今までのけんさん紙発送数の推移と今の発送数。作ってもはたして需要はあるのか？必要か？経費はどうする等と色々な意見が出る。確かに実現に向けてハードルは高い。だから研鑽は必須になるだろう。でも地域版発行について、「やってみたい」と腹の底から強く湧いてきたのも事実。広い北海道たくさんの方



会員さんたちがいる事だろう、でも会員情報、村情報、繋がりや欲しい会員さんたちもいるんじゃないか？各地域の幸福研鑽会はいつ、どこで行われているのか、会員さんの寄り場はあるのか等、移住してきた私にはとても大事な情報であった。そんな経験から「どうぞこの私を使って下さい！」と、引籠りからやっと解放された瞬間だった。

4月6日・7日「京都こだわりマルシェ」に参加して

京都府 SK

桜満開の重要文化財京都府庁旧本館前で開かれた企画に「ヤマギシ京都フレンジー」という店名で参加しました。

この企画に10年以上参加してきましたが、今回は従来のメンバーが参加できなくて一時は参加を見送るつもりでしたが、美里実顕地の鶴さんに協力していただき参加することができました。

実顕地メンバー、元大阪供給所の社員さん、地域の会員で運営。夕張実顕地の原子さんも来訪。

「ヤマギシ懐かしいね」「おいしかったので、また買いに来た」と、特講に何人か送った人、卵を楽しみにしている人等々、主催者からも好評でした。

他の出店者の方々と触れ合いも楽しかったです。高校の生徒、京大・府立大学の学生達とも仲良くなり、皆一様に、ヤマギシに興味津々でぜひ村見学に行きたいと連絡先の交換をしました。学生の一人は、終日ヤマギシの店の売り子をしてくれました。



品物は、終了前に完売。多くの方々の協力で、仲良しの醍醐味を味わい楽しい両日でした。